五行歌会
ひめぼたる通信
R4霜月号

発行人・編集長　ざしきわらし
副編集長　山田　憲路

10月　一席は浪岡末山、二席はルナ

ひめぼたる五行歌会の10月うた会は22日、二戸駅「なにゃーと」会議室で開かれた。

うたは10首。すぱい殿と水無月子さんが欠席で、参加は８人。浪岡末山さんが断トツで一席だった。

★山田憲路うた会鑑賞の記

一席の浪岡末山さんのうた。稲刈りの最中、見上げた空を悠々と行く初雁。秋を語る、新たな名歌誕生。

初雁の上品、名歌生む／何気ない一言、花となる／さよならだけが…

二席のルナさんのうた。掛けられた何気ない一言が花となり、コサージュのように私の日々を彩る。

三席のじぶんのうた。人のように語らずとも、季節もまた、私たちに別れを告げる。「さよならだけが人生だ」。

五月さんのうた。刃を研ぐように、年々先細りする秋刀魚の漁獲量。時には鰯も良いけれど、肥えた秋刀魚も食したい。

中野忠彦さんのうた。創作に付き物の生みの苦しみ。20年には遠く及びませんが、この鑑賞記も毎回、苦心の末の産物です。

ざしきわらしさんのうた。湯船で独り、大海のような大浴場に漂う。凪の中、人生の羅針盤を静かに見つめる。

すぱいさんのうた。「教室の窓より遁（に）げて／ただ一人／かの城址（しろあと）に寝に行きしかな」も啄木の歌。教室にぽっかり空いた空席が、15歳の啄木の心の孤独を物語る。

じーらんさんのうた。味気のない、アクリル板越しの仲間との再会。胸の奥の塩辛さを和らげるには、甘いデザートが一番。

水無月子さんのうた。参勤交代の道中の行き先を占う、サイコロの目。コロコロと二転三転する運命に、誰もが一喜一憂。

果林子さんのうた。虫にとって黄色い点字ブロックは、路上に連なる花の道しるべ。ブロックが尽きた先で、最後の力を振り絞り、次の花へと飛翔する。

五行歌は、自由な言葉で、自由な呼吸で、5行で詠む

古代歌謡から発想した5行の短詩です。自由詩です。テーマは、生活、人情、恋愛、風俗、自然、歴史、哲学……。何でもありです。全国組織「五行歌の会」（本部・東京）の草壁焔太主宰（84）が1957年に着想しました。

楽しい言葉遊び！と考えてください。今すぐ誰でも詠めることが魅力です。

2022・10・22　うた会

一席

浪岡末山

稲刈りしながら
見上げると
初雁の渡り
白鳥より高い空を
上品に行く

二席

ルナ

花殻を
小まめに摘むのはね
〝まあきれい〟と通る人
フフフ
その一言聞きたくて

三席

山田憲路

さよならと
手を振るように
散って
道端に
乾いた音

以下、高点順

今年の秋刀魚は
刃（やいば）の様に光って細い
隣りに並ぶ
まるまる肥えた
鰯をゲット

五月

私の五行歌は
書けない書けない
から始まって
その時の気持ちを
書いて二十年

中野忠彦

新しいホテル
早朝の大浴場
独り占め
湯船で　ふと
人生を考える

ざしきわらし

秋の青空
夏を送り出し
雪雲の席を用意中
啄木が歌うように
心も吸われるし

すぱい

アクリル板越しに
みんなと楽しむ
久しぶりのランチ
どうしようもないしょっぱさを
デザートで和らげて

じーらん

参勤交代の道筋を辿る双六で
巨大サイコロの目の行方に
一喜一憂し
主に六十代以上の参加者が
童心に帰って大はしゃぎ

水無月子

黄色いブロックの上
すれすれに飛ぶ
小さな虫の
ふっくらお腹も
黄色

果林子

※ひめぼたる五行歌会への問い合わせは代表の果林子（0195・22・4880）へ。

第32回全国文書大会の結果

ひめぼたる最高得点は五月、全体11席おお瑠璃、14席お京

第32回五行歌全国文書大会の結果が11月10日、事務局から335人の全参加者に大会誌送付という方法で発表された。ひめぼたる五行歌会の参加者は8人。採点参加者31人による相互評価の結果、上位20席には誰も入れなかった。メンバーの最高点獲得者は五月さんだった。岩手県内からは11席におお瑠璃さん（みやこ五行歌会「潮風」）、14席にお京さん（五行歌「こはく」の会）が入った。

草壁賞は木村苺

草壁賞には木村苺さん（宮古・無所属）が選ばれた。

◇

以下、ひめぼたるメンバーのうたを掲載させていただく。

老いるとは
頭も身体も
動きが鈍る
何したでなく
日が暮れる

じーらん　172点

今日一日を
やりきっても
何も出来なくても
爪は
伸び続ける！

五月　197点

二戸の老舗菓子舗展作品（順不動）

どんぐり堂

「その雑さが命」　じーらん

こねすぎないよう
丁寧に仕上げ
焼き上げる
久しぶりのスコーン

五行歌を書くと　忠彦

体に
新しさが入る
そして
私を正す

福岡の町なかに　ルナ

披露される
長のれん
二戸まつりの頃だけの
特別なおもてなし

もういいかい　ざしきわらし

まーだだよ
見つかりたくない
見つけてほしい
幼心も揺れていた

小桜屋

何の木か知らず　すぱい

切るぞと思った
実がついている
桑の木とわかり
執行猶予とした

カラス鳴きが悪いから　五月

今日は気をつけろと
母の口ぐせ
多動な子どもが
一瞬神妙になる

浪岡末山

帰省せぬ
子らを案じて
荷を作る
祭りのニュースは
一番上に

里神楽舞う　果林子

子等にあわせ
幼子は
祭衣裳の
鈴を振る

夏の終わり　山田憲治

虫に食われた
袋の網目から
鬼灯
秋を透かし見る

その名前を耳にすることもなく
その現象も見逃したまま
突然出会った〝半夏生〟
半化粧の白い葉に
目を奪われた今年の夏

水無月子

◇

ひめぼたる五行歌会は二戸市文化祭（11月4～6日）終了後、同市福岡地区の老舗菓子舗「どんぐり堂」と「小桜屋」の店内で、文化祭出展作品の中から各位選りすぐりのうた10首を展示していただいた。お店の人の話では「五行歌って上品。お菓子屋さんに似合うわね」と言ってくれたお客さんもいたとのこと。

事実を知って
ロマンを
描けよ
見上げる星は
岩石だ

中野忠彦　149点

寒がりの妻のために
断熱材を入れた部屋が
突然残された
猛暑の始まった夏
メモリアルルームとして

水無月子　111点

かすかに微笑んだ父の遺影
その元の写真の中で
父と腕を組んでいるのは
娘の私
それを思うたびなんかウレシイ

ざしきわらし　103点

思い出が
思い出に
包まれている
記憶がほやけて
それが思い出さ

ルナ　98点

「みずず」の繊細さもなく
「新子」の潔さも持ってない
私は老いたカナリア
でも歌ってもいいですか？
めぐり会えた五行歌

果林子　92点

玄関の
くもりガラスに
顔をピッタリくっつけて
見ている幼子に
さようなら　また遊びましょ

ざしきわらし咳く

カレーライス
「おかわりっ」と
笑顔の子ら
始めてよかった
子ども食堂

ざしきわらし

二戸で子ども食堂活動を始めました。食品衛生協会の責任者や食の匠やベテラン管理栄養士、食生活改善推進員などが仲間です。

お代を頂いて食事を出す食堂ではありません。子どもたちを真ん中に誰もが笑顔で集う居場所づくりを目指します。

11月13日の日曜の昼、中央小学校に隣接した生きいき交流センターで初めての子ども食堂イベントを行いました。ボランティア10人でカレーライス30食分を用意しました。子ども10人と大人2人が来てくれました。ささやかな成果でしたが、大きな一歩だと思っています。

一方、居場所づくりは大変です。堀野地区の空き家だった木造2階建ての一軒家を格安家賃で借りて、リフォームを進めています。いま、資金援助を地元の優良企業などにお願いして回っています。

一人でも多くの皆さんのやさしさが、地域の活性化につながれば――と祈っています。